

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

### 事業名 **新**ぎふの農村ワーケーション推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内 3173)

E-mail: [c11427@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11427@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 18,000千円 (前年度予算額：0千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	18,000	0	0	0	0	0	0	0	18,000
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染症対策により、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が広がってきており、人々のライフスタイルも変化している。このような多様な働き方は、新しいツーリズムの可能性がある。

一方、新型コロナウイルスによる影響で、農泊に取り組む地域への旅行者が減少していることから、農村地域の持続的発展に向けて、With コロナ期における人々の意識・行動の変化を踏まえた新たな農泊ニーズにあわせた仕組みづくりが必要である。

### (2) 事業内容

- ワケーション拠点整備補助金  
ワケーションを実施するための環境整備支援
- ワケーション企業支援補助金  
農村地域に滞在し、農村地域との交流、維持活動等を含んだワケーションを実施する都市部の民間企業・団体等を支援

### (3) 県負担・補助率の考え方

- ・ ワークेशन拠点整備補助金（補助率：3/4、上限 750 千円、20 施設）
- ・ ワークेशन企業支援補助金（補助額：1/2、上限 5 千円/人、600 千円/企業、5 企業）

With コロナ社会の新しいライフスタイルに対応した環境整備のため、県内全域を対象とした活動を推進するものであり、県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

有 宿泊施設デジタル活用応援補助金（観光企画課）

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	15,000	ワークेशन拠点整備補助金
補助金	3,000	ワークेशन企業支援補助金
合計	18,000	

### 決定額の考え方

以下により計上を見送ります。

- ・ 拠点整備補助金については、商工政策課予算(アフターコロナ・チャレンジ事業者応援補助金)で一部対応可能であること、及び、国庫事業を活用すべきであるため活用に向けワークेशन推進事業費で指導を実施すること。
- ・ 企業支援補助金は、他県・他部局に事例が無く必要性が不明確であるため。

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

### (2) 国・他県の状況

国や一部の他県でも、ワークेशनの推進に取り組まれている。R元年度にワークेशन自治体協議会が設立され、現在 16 道県 105 市町村が加入している。

### (3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の中間見直しを行う R5 まで実施する。

### (4) 事業主体及びその妥当性

県全体の農村のワークेशनを普及・啓発を目的とした事業であるため、妥当である。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	ぎふの農村ワーケーション推進事業費補助金
補助事業者（団体）	岐阜県農林漁業体験施設、農泊実践地域、都市の企業及び団体等 （理由）農村地域の農泊等に取り組む事業者等に重点的に支援を行い、農村地域の活性化を図る
補助事業の概要	（目的）農村地域のワーケーションを推進するための環境整備、交流・関係人口の拡大による農村地域の活性化。 （内容）ワーケーションを実施するための環境整備支援及び農村地域との交流、維持活動等を行う企業等を支援する。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）拠点整備 3 / 4、上限 750 千円 企業支援 1 / 2、上限 5 千円 一企業あたり 600 千円 （理由）With コロナ期の新しいライフスタイルに対応した環境整備のため
補助効果	・農村地域における新しいビジネスの創出 ・交流・関係人口の増大による農村の活性化
終期の設定	終期令和 5 年度 （理由）ぎふ農業・農村基本計画の中間見直しを行う R 5 まで実施する。

### （事業目標）

休暇を楽しみつつ仕事を行うワーケーションを推進し、農村地域の地域資源を活かした新たなビジネスの創出、交流・関係人口の拡大による農村地域の活性化を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R 1 年度末)	目標 (R3 年度末)	目標 (終期)
① 農林漁業体験者数 (ぎふ農業・農村基本計画)	214 千人	260 千人	280 千人
② ぎふの田舎応援隊登録者数 (ぎふ農業・農村基本計画)	289 人	800 人	920 人

	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績				(予算額)	(要求額)
指標①目標					
指標①実績				(推計値)	(推計値)
指標①達成率				(推計値)	(推計値)

(前年度の成果)

--

(今後の課題)

受け入れ施設等の整備及び都市住民に対するワーケーションの情報発信が必要である。
---

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)	新型コロナウイルスによる影響で、農村地域への旅行者が減少していることから、農村地域の持続的発展に向けて、With コロナ期における人々の意識・行動の変化を踏まえ、農泊のひとつの手段としてワーケーションを推進するための環境整備が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	○

(事業の見直し検討)

--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止 (理由)
---------------------

